

# がん治療の成果発表

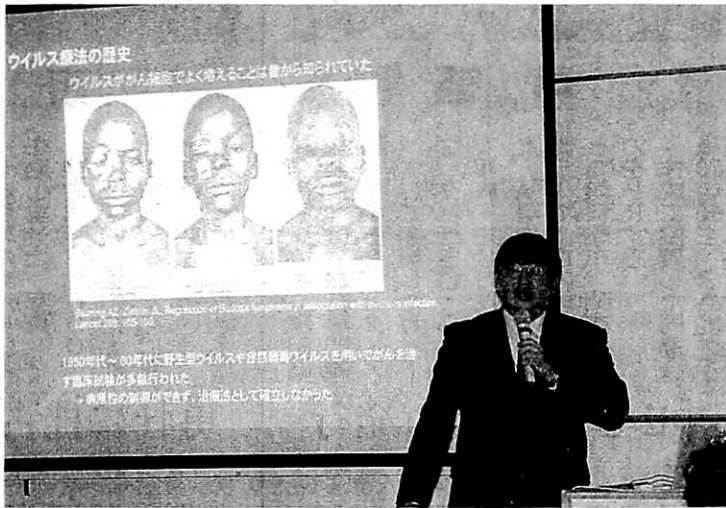
## 岐阜大で比較腫瘍学シンポ

最先端のがん治療の研究成果を発表する、岐阜大学岐阜市柳戸応用生物科学部付属がんセンターの「比較腫

瘍学シンポジウムが、岐阜市吉野町の同大サテライトキャンパスで開かれた。

比較腫瘍学は、ペットをはじめとした伴侶動物（コンパニオンアニマル）とヒトのがんの疫学や病態などを比較し、類似性や相違性から、伴侶動物とヒトのがんを克服することが目的の学問。

シンポジウムでは、東京大学医科学研究所の赤尾幸博教授は、特定の遺伝子の発現を抑制する「RNA（リボ核酸）干渉」と呼ばれる現象を応用した、新たな治療法について発表した。（中村芳紀）



ウィルスを用いたがん治療の研究成果を発表する藤堂眞紀教授（岐阜市吉野町、岐阜大学サテライトキャンパス）

先端医療センターの藤堂眞紀教授が、正常な細胞では増殖せず、がん細胞のみで増える遺伝子組み換えのウィルスで、がん細胞を破壊し治療を図る治療法を紹介。「進行度やがんの多様性にも対応できる」と期待できる」と述べた。

また岐阜大大学院連